

ちば里山新聞

(第9号)

編集 発行 ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 電話 0438-62-8895
 題字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

「里山再生は企業活動の一環」 ワタミエコロジー(株)中村社長に聞く

本県の良好な里山を次世代に引き継ぐために、ちば里山センターの会員をはじめ様々な人たちが里山の保全・再生に関わる活動に参加しています。当センターでは、里山活動の輪をさらに大きなものとするために企業の参加による里山づくりを進めています。

このため、当センターでは県と協働で里山の保全・再生のための3つのプログラム(①里山活動協定、②ボランティアサポートシップ、③県有林における里山活動)を用意し、県内の企業を中心にホームページなどで積極的な広報活動を行っていく予定です。

このような中、全国に居酒屋チェーンを展開するとともに環境・福祉・農業など幅広い企業活動を行うワタミグループから、当センターに対し、里山活動を支援して欲しいとの要請を受けました。

当センターでは、同グループの活動を紹介し他の企業にも広げていくために、「企業の里山再生活動」について、同グループの環境部門を担い、里山活動の中心となっているワタミエコロジー株式会社の中村昌宏社長と当センターの金親会長の対談を申し入れたところ、快く引き受けていただきました。対談場所は森林整備を始めたばかりの「ワタミの森」。当日は看板が丁度できあがったところで、休日にもかかわらず同社の大勢の方が里山整備に汗を流していました。

対談の中で金親会長から会社組織としての里山活動は長期的に継続性が確保されるので心強いことや、千葉を選んでくれたお礼などを話しました。

金親：この対談に先立ち、千葉の里山を整備していただきありがとうございます。(※第3面トピックス参照)

中村：企業として活動を行っていくとどうしてもCO₂を多く排出してしまいます。森づくりを行うことにより、いくらかでもCO₂を回収できればと思っています。また、そうした活動で気持ちのいい汗をかいたり、自然にふれたりして楽しんで行けたらと思っています。

金親：昨日、弊社の従業員が千葉の稲毛にある「坐・和民」で飲み会をやったらしいのですが、その時、「たばこが欲しいなあ」とつぶやいたところ、従業員の方が即座に買いに走ってくれたそうです。これにおどろき、他の会社とは違うと大いに感心したそうです。

社員の皆さんが社会への還元を意識しているのだからなあと思っています。

また、グループの渡邊社長をはじめ、社会のさまざまな分野(教育や今回の里山など)に積極的に登場していますが、会社としてどのようなテーマ、モットーをお持ちなのでしょうか？

中村：ワタミグループでは地球上で一番たくさんの『ありがとう』を集めることをスローガンとしています。それが自分を幸せにする、人間性の向上になる、人の生きる目的へつながるのではないかと思います。



(右が中村社長、左が金親会長)

例えば、外食では、お客様に美味しい食事、きれいな店舗などの気持ちのよいサービスを提供して『ありがとう』をいただいております。全国に約620店出店しています。

また、農業では、山武市にある農場「ワタミファーム」で有機農法を行い、安心して健康的な食材を提供し、そのことが『ありがとう』を集めることにつながればと思っています。山武市は天候気候が安定しているので、作物の収量はとてもよいです。

金親：ホームページを拝見しますと、ワタミグループは自然や地球にやさしい、環境の保全に貢献することを目指しておられ、ワタミエコロジー株式会社はその中核的存在として考えてよろしいのでしょうか…

中村：はい、外食産業として活動していくと、どうしてもたくさんの廃棄物を生じます。廃棄物の「ゼロエミッション」に取り組もうと生ゴミを堆肥にしたり、店舗ごとに10種類ぐらいに分別し、再利用可能なものをワタミのなかにあるリサイクルセンターに集め、再資源に取り組んだりしています。

金親：里山活動として千葉県を選んだ理由は何でしょうか？

中村：山武市の農場の近くに森林があることがきっかけなのですが、里山は季節ごとに活動しなければならないことがわかり、近距離でないと交通費や移動におけるCO₂など、地球へさらに負担がかかること、また、ちば里山センターの方にお手伝いをいただけることにより選びました。



金親：千葉の里山においても、その管理が大きな問題になっています。企業が里山活動に参加してくれることは大変ありがたいし、それが広がっていけばと思っております。

中村：9ヘクタールの森からスタートしていますが、それを継続し、たくさんの仲間が増えるのは励みになります。また、他の企業との交流も考えられますし、楽しい活動にしたいと思っています。

金親：他の企業の皆様が継続的に里山活動に参画していただきたくためのアドバイスなどをお聞きしたいのですが？

中村：私どもの会社では、現在の活動の中から広げたいと思っています。20～50代の社員が活動していますが、そこから家族、友人の輪を広げ、自然につないでいく。そして、50年100年の地球を守る小さな活動につなげることになると考えています。



金親：山にはいると人が優しくなる、いやされると感じますが、いかがでしょうか？

中村：今回の活動は我社の環境部が始めたのですが、心がいやされ、いい汗をかけ、楽しんでいきます。また、全社員を何回かに分け、里山活動を1月までに体験してもらおうと思っていますが、後の月1回の活動に自発的に参加して、楽しんでもらえればと思っています。

金親：ところで、従業員の方はどのくらいいらっしゃいますか？

中村：国内の外食の社員は約1500名ぐらいでしょうか。その社員旅行の一環でワタミエコロジーが中心となって今回の森の作業を行っております。1～2月は150名を予定しております。

金親：前回の活動を拝見させていただいて、社員の方が喜々として作業をしているのが印象的でした。

中村：ワタミグループ社長渡邊の意志、考えを受けてこの活動を行っております。それにより、参加、参画意識を発揮する社員が多いと思います。

金親：ワタミグループではほかにもどのような活動を行っていますか？

中村：外食の他に、介護事業にも参入し、現在は神奈川を中心に21棟の有料老人ホームを運営しています。また、農業では有機農場「ワタミファーム」にて有機野菜のほか、北海道では短角牛を有機飼料で育てており、現在全国に8箇所、約450haの農場、牧場を保有しています。ワタミエコロジーは施設のメンテナンスや廃棄物のリサイクル、省エネ施設やISO14001の、グループでの運用管理をしています。

金親：これからの抱負、計画を教えてください。

中村：森づくりについてですが、企業活動に伴い、どうしてもCO₂の排出量が多くなります。試算すると代替えて60数ヘクタールの森林を元気にさせる事が必要になります。それを目標としています。

9ヘクタールの森林整備からスタートし、50年100年の時間の流れに沿った活動を行っていきたいと思います。

金親：山に名前を付けることは？…

中村：(笑)

金親：看板を作っていますが、「ワタミの森」と…

中村：はい。そう、つけさせていただきました。

金親：今日は北総のおだやかな天気のいい1日を迎えることができよかったと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

中村：こちらこそよろしくお願いいたします。

……………
～ 好 評 ～

9、10月、山武市のワタミの森で里山整備活動の支援を行いました。社員1人1人の熱意、姿勢にとっても感動しました。今回の対談でワタミのモットー『ありがとう』を集めることが日頃の業務、そして、里山整備活動に反映していることがよくわかりました。よい仲間を得たと改めて思いました。

ちば里山センターは、今後もワタミの里山整備活動を支援するとともに、色々な方々とのこのような対談を催したいと思っています

……………

トピックス

～ちば里山センターの出来事～

技術研修

里山体験活動で大切なことはケガなく、安全に楽しく活動を行うことです。そのための技術研修をちば里山センター主催で行いました。

下刈機やチェーンソーの機材研修のほか、里山の文化と生活体験として、稲刈りやドラム缶炭焼・伏せ焼き、また、安全のための講義を行い、参加者は熱心に取り組んでいました。この研修を通し、安全でレベルの高い里山活動ができれば幸いです。来年の1、2月も行う予定ですのでふるって参加下さい。

ぽぴあ里山体験活動

9月27日(水)、君津市三舟山で知的障害者地域支援団体「ぽぴあ」の方たちと森林浴のはず…だったのですが、雨天で中止となりました。が、急きょ、君津市役所のご好意により、君津市森林体験交流センターに会場を移し里山体験を行いました。

用意した色紙と同じような色をした森の木の葉などを採るレクリエーションを行い、森にはたくさんの色があることに驚いていました。

後日、ぽぴあの方から心のこもった素敵なプレゼント(右写真)をいただきました。



イオン(ジャスコ)里山体験活動

イオン(ジャスコ)では次代を担う子どもたちの未来によりよい環境を残していくため、様々な環境問題に対する活動を実践しています。今回、ちば里山センターがコーディネートを行い、千葉県内の各店舗にある「イオンチアーズクラブ」の子どもたちを対象に10月8日(日)、10月28日(土)、29日(日)、里山の大切さを体験する里山活動体験を行いました。

気持ちのよい汗を流し、色々な生き物にふれ、楽しい里山体験の一日でした。



ワタミグループ里山体験活動

9月28日(木)、10月19日(木)、26日(木)、山武市においてワタミグループによる里山整備活動(下刈り・間伐)が開催され、ちば里山センターは技術指導と伐採の実演を行いました。皆さん熱心に作業され、林の中がすっきりし、とても見通しがよくなりました。

第3回えこふえすた IN 千葉

10月14日(土)、15日(日)、長柄町アウトレットコンサート長柄において、「第3回えこふえすた in 千葉」が開催されました。

ちば里山センター及び市原米沢の森を考える会やいちほら里山クラブなどの里山団体は、15日(日)に日頃の活動などを紹介したパネル展示を行いました。訪れた方々は活動の写真に感心されたり、熱のこもった説明に耳を傾けていただきました。



みんなでつくろう森の階段

11月4日(土)、晴天の下、「市原米沢の森を考える会」(代表：鶴岡清次さん)の活動フィールドで里山整備活動を行いました。

当日はスタッフ合わせて約80名参加し、和気あいあいと汗を流し、ノコギリやチェーンソーで伐採したヒノキ丸太を利用して階段づくりを行い、とても歩きやすくなりました。



事務局からのお知らせ

○寄附および5口以上の会費納入がありました。

- ・ワタミエコロジー株式会社・ワタミの森をつくる会(賛助会員): 会費10口
- ・エコフェスタ in 千葉実行委員会: 寄附5万円
- ・みどり推進課重田様(賛助会員): 会費5口
- ・みどり推進課橋本様: 原稿料寄附2万7千円

○事務局ボランティア募集!!

ちば里山センターでは里山新聞の編集またはホームページの運用をお手伝いしてくれる人を募集しています。

○ボランティアサポートシッププログラム参加者募集!!

↑(交通費支給)

里山活動団体と企業が連携して里山活動を行う仕組みの「ボランティアサポートシッププログラム」の参加をしていただける里山活動団体と企業を募集しています。

会員団体紹介

(特非) 大山千枚田保存会



大山千枚田のある旧大山村は鴨川市の最西端で300メートルほどの標高の山が入り組んだ傾斜地の多い中山間地域です。

傾斜がきつく小さく不整形な田んぼのうえ道路も未整備で農業を続けていく条件としては非常に厳しい環境にあります。

しかし、見方を変える、発想を変えることにより新たな展開が開けるものです。規模の小さな棚田は都会の人が体験として耕作するにはちょうどいいサイズであり、高齢者はその田んぼ作業の指導者として伝統的な農業技術の継承者であります。

環境の良い里山での農業体験は都市住民にとっては都市での暮らしの中で抱えるストレスや食の不安の解消につながる新たな取り組みでもあり、それぞれが持つマイナス部分を体験

交流することによりプラスに転化できる活動です。地域に残る自然や文化、人すべてが財産であり、それに関わりながらの日々の暮らしそのものが自然体験です。私たちの活動の発想がここにあります。

大山千枚田保存会が主催する体験活動の中で棚田を生かす「棚田オーナー制度」は、小さな区画の田んぼで米作りをしたいという都会のオーナーに貸し出し、お米作りを体験しながら稲作技術の習得や地域の人と交流し、農業の大切さや棚田を含んだ里山の保全への理解を図ろうとするものです。

また、復田した田んぼの中でも畑地化している田んぼを使い、大豆の種まきから草取り、収穫、収穫した大豆で豆腐や納豆、味噌作りまで体験する「大豆畑トラスト」、「酒づくりオーナー制度」は、酒米の田植えから草刈や稲刈りなど、すべての稲作作業を体験し、なおかつ日本の文化である日本酒を地域に残る醸造元と連携し仕込み、収穫物として受けとります。

地元の窯元と連携し、マイぐい飲み作りや藁の繊維を含んだ紙を漉き、マイラベル作りまで体験できます。さらに、少し昔に当たり前に残っていた自分で作る「衣」に関するプログラムもあります。和綿と藍染めの藍を種から育て綿から糸をつむぎ織りから染まで体験する「綿藍オーナー制度」です。安価で丈夫な化学繊維が氾濫する中で、日本の自然の中で培われた繊維をもう一度見直し、暮らしの中の「衣」考えて見ようとするものです。

また、食に関する取り組みとして、おもてなしの食や普段の家庭の食事の中から残していく大切なものを見つけ地域に残る食文化として伝えていく活動もしております。祭り寿司はその典型でもあり、四季折々の花や蝶、カタツムリの絵柄を盛り込んだ太巻きずしです。地域の食作りの体験に加え、食文化の体験として食事の提供もしています。

里山が持つ自然の豊かさの体験として、棚田の四季折々の自然観察会は、トウキョウサンショウウオの産卵調査や蛍観察会、コケリンドウやカントウタンポポの群生など四季の草花の観察会、里山ウォーキングまで広がっています。(文：石田三示)

44件登録!

里山情報バンクの紹介

活動団体募集中!



◆ 里山情報バンク整理番号05-05-02

場所・面積：山武市森（旧山武町）

（東金有料道路山武成東ICから車で5分、約3km）

約1.38ha

内容：現地は車、電車ともにアクセスが良く、森林所有者の管理も良いことから活動しやすいところです。

また、今後の作業の中心は下刈り、溝腐被害木の駆除となるため機械作業の出来ることが望まれますが、下刈り、植林については初心者でも参加できます。

作業等についての指導は里山センターが応援します。

（駐車場、トイレ、水道等については森林所有者と相談が必要となります。）